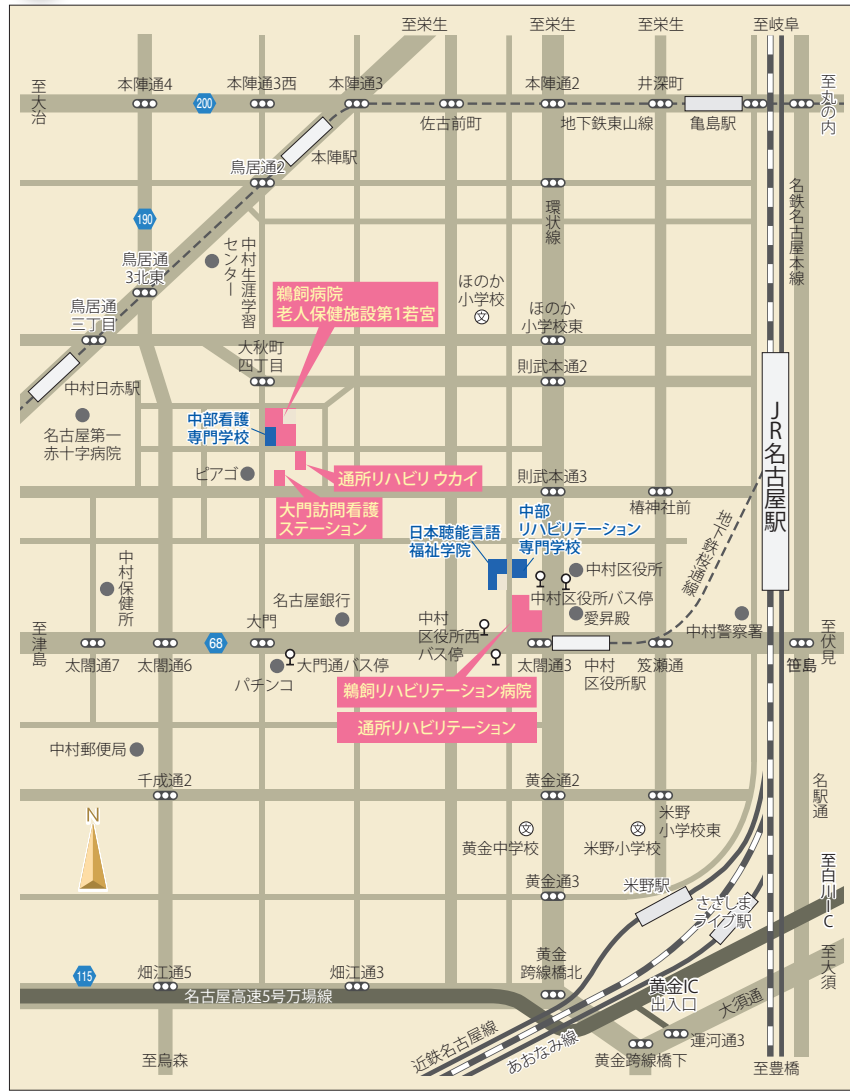


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より..... 徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車..... 徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より..... 車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ..... 車で約 5分



URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通 4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町 6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町 2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町 2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.62

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

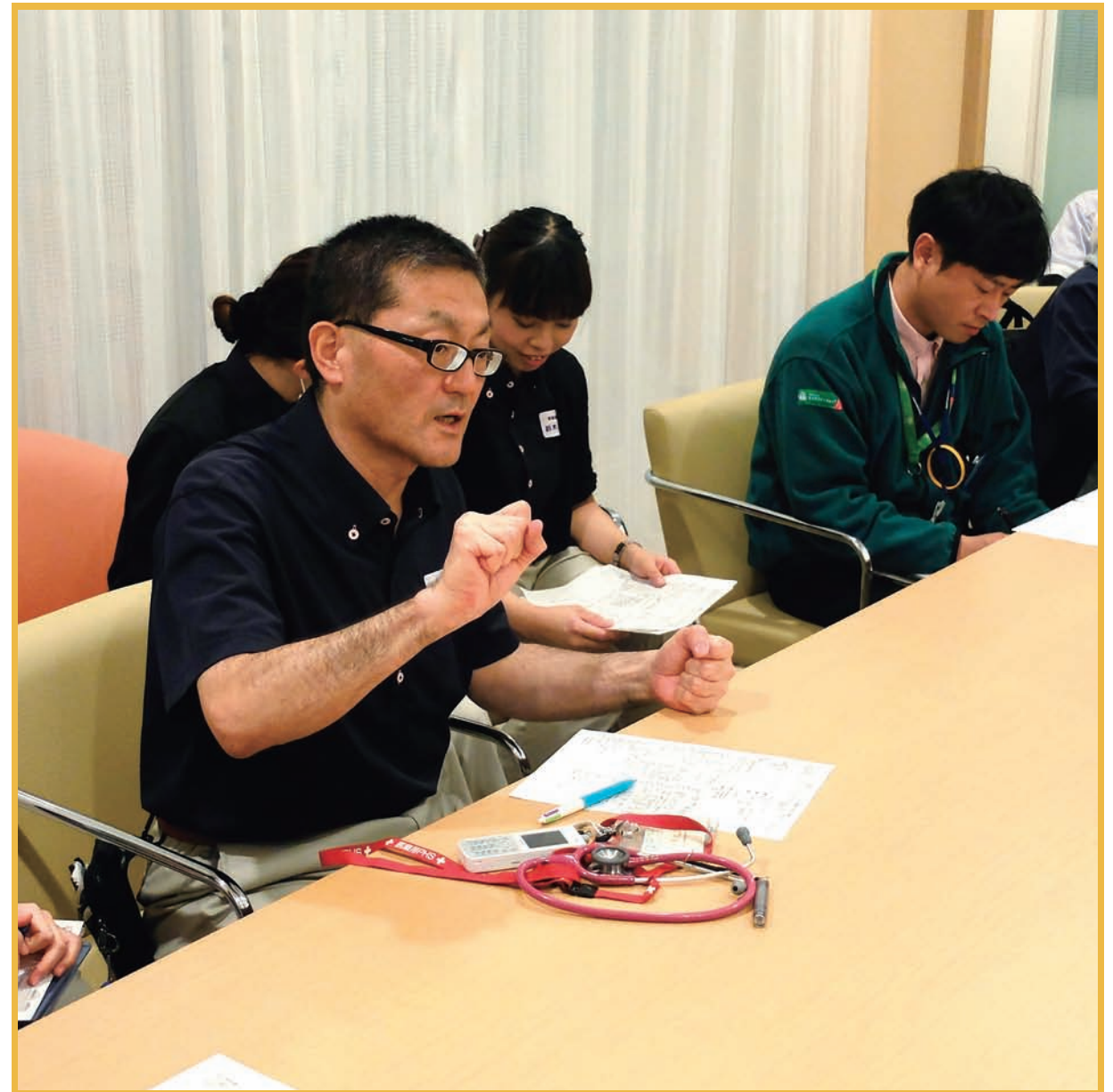
リハッピー

Vol.62

発行人/ 鵜飼泰光
発行/ 鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通 4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/ 鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/ プロジェクトリンク事務局
発行/ 平成30年1月1日

〈特集〉

患者さんと家族とチームとともに、
生活を再構築する。



URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

患者さんと家族とチームとともに、生活を再構築する。

さまざまな職種が関わるリハビリテーション医療において、チームのリーダーとなる医師。鶴飼リハビリテーション病院には、院長を含め、9人の常勤医師が在籍。そのうち3名がリハビリテーション科専門医の資格を持つ。今回のReHappyでは、平成29年3月にリハビリテーション科専門医を取得した、津金慎一郎医師に、リハビリテーション医療における医師の、そして、リハビリテーション科専門医の役割について話を聞いた。



リハビリテーション科専門医 津金慎一郎

入院時の全身状態を把握し 今後の生活の道筋を立てる。

鶴飼リハビリテーション病院の医師と患者さんとの関わりは、入院時の診察から始まる。そこで重要なのは、「その患者さんが、退院後どのように生活していくか」という見通しを立てることだという。

「ADL（日常生活動作）の低下だけでなく、全身状態を正しく評価した上で、2週間後、一ヵ月後、退院時…と、患者さんの望む生活復帰までの大きなイメージを持ちます」と津金医師。

同院に入院する患者さんのなかには、麻痺などの機能障害のほか、発熱、心不全、糖尿病などの症状を抱え



ているケースも少なくない。医師は、機能回復に向けたリハビリテーションの中身とともに、それらの原因を明らかにし、どのように全身状態を落ち着けるか、退院後の生活にはどんな影響が考えられるかを把握する。さらに、患者さんの病気になる前の生活、退院後に望む生活を丁寧にヒアリングすることで、可能な限り希望を実現できる道筋を描くのだ。

診療の後には、その患者さんを担当する、セラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、看護師、医療ソーシャルワーカーなどのチームメンバーを集め、初回カンファレンスを開催。患者さんの状態とともに、今後の見通しについてプレゼンテーションを行い、方針を擦り合わせていく。「カンファレンスでは、『もう少し早い機能回復が見込めるのでは』『少し要求が高い』など、各専門職の立場から、活発に意見が出ます。私たちは、医師としての考えも述べながら、退院時期を含め、全体をまとめていきます」（津金）。また、鶴飼リハビリテーション病院では、初回カンファレンスの段階から、退院後に想定される在宅支援サービス（訪問看護、訪問リハなど）についても検討される。「入院時の段階から、退院後に必要になりそうな在宅支援サービスを想定し、調整することで、退院から間を置かず、サービスを導入する

ことが可能になります」と津金医師は語る。

初回のカンファレンスで方針が決まると、各チームメンバーが計画を実施。定期的にかンファレンスを行い、微修正を加えながら、退院に向けて動いていく。「うまくいけば当初の計画どおり、そのまま進んでいきますし、体調に変化が出た、思ったほどの機能回復が見込めないような場合には、その都度修正をかけていきます。私たち医師も、日常的に患者さんのものを訪れることで、そうした状態変化を見逃さないように気をつけています」。

退院が近づくと、必要に応じ、患者さん、ご家族、チームメンバー、退院後の在宅支援スタッフなどが一堂に会する担当者会議に参加。生活復帰に向けた最終の調整を行う。患者さんが訪問診療を受けるような場合は、「訪問診療を行う医師と実際に顔を合わせて申し送りをすることもある」という。

本当に大切なのは、<生活を取り戻す>という視点。

津金医師は、かつては脳神経外科専門医として、名古屋市の高度急性期病院に勤務。「リハビリテーション医療に携わりたい」との思いで、2013年に同院に赴任した。「当院で勤務してから、リハビリテーションは単に機能や能力を回復するだけでなく、退院後の生活を取り戻すためのものだという理解が深まりました。急性期の病院では、どうしても<疾患を治す>ことに主眼が行き、<生活を取り戻す>ことは二の次になりがちです。しかし、リハビリテーションが中心の当院では、それこそが本丸。そして、医師は、患者さんの<生活を取り戻す>ためのチームにおいてリーダーとして機能しなければならない。私自身、常に患者さんのその後の生活を意識するようになりました」。

では、リハビリに携わる他職種は、医師の存在をどう



理学療法士 藤井博昭

見ているのか。理学療法士の藤井博昭は、「医師は、疾患に関する理解、医学的知識が豊富なので、患者さんの入院時の状態を総合的に把握し、その後を予測する力に長けていると思います。また、最近では急性期病院の在院日数が短縮され、依然とし



医療ソーシャルワーカー 小野千鶴

て医療を必要とする患者さんが増えてきました。その点、医学的な全身コントロールやリスク管理のできる医師が患者さんを診ているという安心感は、非常に大きい」と言う。

医療ソーシャルワーカーの小野千鶴は、退院後に入所する施設や

通院先の診療所を選定する際に医師の存在が欠かせないと話す。「患者さんのなかには、退院後、施設に入居される方もいらっしゃいます。ただ、施設によっては、処方されているお薬や想定される処置に対応できないケースもある。そういった際、患者さんが希望される施設にご入居いただくため、薬や処置を変更できないかなどを医師に相談します。また、医師は、地元の診療所の先生をよくご存知ですので、通院先の診療所を選定する際には、いろいろとアドバイスをいただきます」。



そして、2人が口を揃えるのが鶴飼リハビリテーション病院の医師の持つ生活への目線だ。「私は、他病院での勤務経験もありますが、当院の先生方は、本当に患者さんの生活像をイメージし、考えながら診療されているという印象があります。生活復帰にはどんな支障があり、何をすべきかを、私たちと一緒に考えていただけるので、とても心強いです」（小野）。

リハビリ専門医を取得したが、それでも一人では役に立たない。

平成29年3月、津金医師はリハビリテーション科専門医を取得した。リハビリテーション科専門医とは、病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断し、理学療法、作業療法、言語聴覚療法などを含めた治療を行うことで、

機能回復と社会復帰を総合的に提供することを専門とする医師だ。1980年代に専門医資格が生まれ、近年、リハビリテーションの重要性が認識されるなかで、少しずつ資格取得者も増えてきているが、全国でも2,500人程度とその数は未だ少ない。

鶴飼リハビリテーション病院で勤務することになった時点で、リハビリテーション医としての自身のレベルを向上させるため、リハビリテーション科専門医の取得を決めていた津金医師。ただ、リハビリテーションに対する経験と体系的な理解を深め、専門医となった今、「それでも医師一人では何もできない」と口にする。リハビリテーションは専門性を持った多職種が連携し、ともに進めていくのだと痛感しているからだ。「極端な話、単に手術をするだけであれば、優秀な外科医が1人いれば何とかかなるかもしれない。しかし、リハビリテーションは長期的に、さまざまな角度から患者さんの生活復帰を支えていかなければなりません。そのためには、多職種がそれぞれの領域で専門性を高め、連携することが重要。医師一人だけではどれだけ経験があっても実現できるものではありません」。

患者さんとともに生活を再構築していく。

リハビリテーションは、医師だけでも、セラピストだけでも、看護師だけでも完結しない。本当の意味で多職種共同が求められるのがリハビリテーションの現場だ。

そして、実は患者さん自身と家族も、チームの一員であると津金医師は強調する。津金医師はペイシェント・センタード・ケア(患者さん中心のケア)の考え方を常に念頭に置いている。「患者さんやご家族にも自ら考えてもらい、自分自身の生活を取り戻すために一緒にな



ってリハビリに向き合ってもらおう。医療従事者たちと対等な立場で並び、能動的に取り組んでもらうのが理想の姿です」。

しかし、患者さん中心の医療といっても、ただ、患者さんを真ん中に据え、指示を与えるだけではダメだと言う。「医師、セラピスト、看護師などのチームメンバーもそうですが、患者さんやご家族も横並びだと思います。専門職と患者さんは対面関係ではなく、患者さんに伴走し、<望む生活への復帰>という共通の目的に向かって、同じ方向に歩んでいくべきです」(津金)。



リハビリテーション医療において医師は、セラピストや看護師、医療ソーシャルワーカーなど、専門職で構成されるチームを一つにまとめ上げる存在である。だからこそ津金医師がめざすのは、誰からも信頼される存在になること。「リハビリテーションに携わる医師としてまだまだ学ぶことの多い日々です。さらに自己を高め、他職種のスタッフからもそうですが、患者さん、ご家族から安心してもらえる存在になりたいと思っています」。

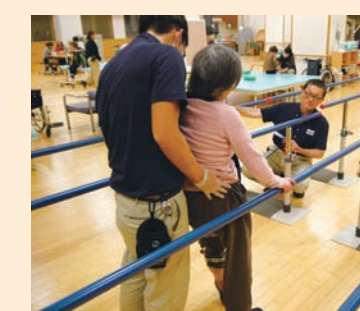
For the Best Rehabilitation

Topic 1

一人ひとりに合わせた装具を作るための「装具診察」

リハビリテーションに携わる医師の仕事には、いくつかの専門的な手技がある。そのなかの一つが「装具診察」である。そもそも装具とは、失った身体機能の障害を軽減するために使われる補助器具のこと。一般的によく知られる義手や義足の他にも、一定期間だけ装着して特定の部位の補強や矯正に利用される治療的な装具などもあり、その種類や用途はさまざま。身近なものでは、膝のサポーターや足底板、腰部のコルセットなどがある。

これらの装具は、患者さんに合わせた完全オーダーメイド



のものも多く、専門の義肢装具士が製作する。そして、この装具の製作をするために事前に行われるのが「装具診察」だ。リハビリテーション科専門医となった津金医師



も、平成29年10月から装具診察を担当することになった。鶴飼リハビリテーション病院では、6階のリハビリテーションの練習室で装具診察を行っている。必要に応じて問診や触診、レントゲン検査などを行い、全身状態を鑑みながら装具の適用を判断。実際に装具を製作する義肢装具士や、リハビリテーションを担当する理学療法士からの意見を踏まえながら、一人ひとりの生活に合った装具を作り上げていく。

Topic 2

誤嚥などを未然に防ぐ嚥下造影検査(VF)と嚥下内視鏡検査(VE)

医師にとって<嚥下造影検査(VF)><嚥下内視鏡検査(VE)>も重要な手技の一つだ。VFは、X線透視下でバリウムなどを飲んでもらい、その透視映像から嚥下運動を評価、診断する検査のこと。バリウムを口の中から喉の奥

まで送り込み、ゴクンと飲み込むまでの動作に問題がないか、誤嚥があるかどうかを、口腔、咽頭、食道の動きなどから判断する。一方のVEは、ファイバースコープなどの内視鏡を用いて行われる嚥下機能検査のこと。鼻から内視鏡を挿入し、咽頭部を実際に見ながら飲み込んでもらい、その動きを確認する。

どちらの検査も、患者さんの障害の程度を正しく確認し、安全に食べるための条件を見つけて治療方針を決定する際に役立てるためのもの。鶴飼リハビリテーション病院では、これらの検査を通

じて、医師や言語聴覚士などが協力し、患者さんの嚥下状態を正確に把握。誤嚥の予防、適切な嚥下訓練の実施、退院後の生活指導へと繋げている。



珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、
患者さんやご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
 - 健康状態の確認（メディカルチェック） など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が
職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑

顔が、職員の励みになっています。これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

- 理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション
- 日常生活の援助
（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）
- 在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00
（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。